

### クモヘリカメムシの発生が早まっています

～周辺より出穂の早い水田では、成虫の飛来に注意しましょう～

#### [現在の状況]

- ① 7月17日現在、有効積算温度から計算したクモヘリカメムシの産卵開始時期は、平年より早い（表1）。
- ② 7月上旬現在、水田内におけるクモヘリカメムシのすくい取り虫数（本年値0.04頭、平年値0.13頭）は平年並～やや少なく、発生地点率（本年値4%、平年値7%）は平年並～やや低い。
- ③ 7月下旬現在、一部圃場でクモヘリカメムシの多発生を認めている。
- ④ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

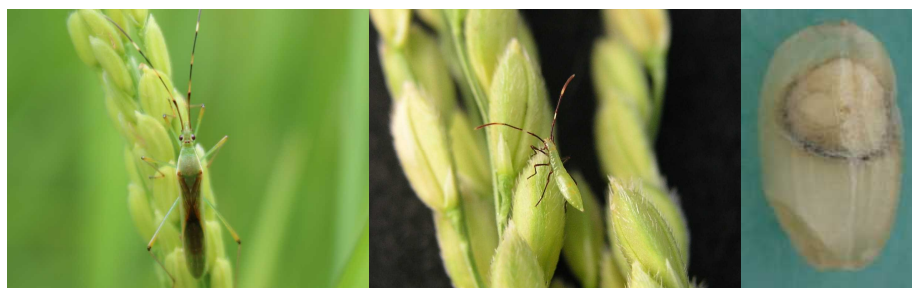
表1 有効積算温度から計算したクモヘリカメムシの産卵開始時期

	常陸大宮市	水戸市	鹿嶋市	土浦市	筑西市
本年値	7/13	7/7	7/9	7/4	7/5
平年値	7/24	7/20	7/22	7/14	7/14

#### [防除対策]

- ① 周辺より出穂の早い水田では、成虫の飛来が集中する恐れがあるので注意する。また、周辺より出穂の遅い水田では、周辺の水田で増殖した新成虫の飛来により密度が高まることがあるので注意する。
- ② 成虫を対象とした防除適期は、穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は防除を実施する。
- ③ 幼虫を対象とした防除適期は、出穂10～15日後頃（乳熟期）である。乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生量が多くなる\*ことから、斑点米の発生を防止するためには、この時期の幼虫密度を低下させることが重要である。
- ④ 防除薬剤は表2を参考にする。防除の際には収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。また、周辺作物（特に早生品種を作付している水田がある場合）に飛散しないよう注意する。

※ 乳熟期から糊熟期に捕虫網（直径36cm）を用いた20回振りすくい取り調査で幼虫が3頭以上確認される水田では、玄米等級が2等以下となる確率が高い。



クモヘリカメムシ成虫

クモヘリカメムシ幼虫

斑点米

表2 稲のカメムシ類防除に使用できる主な薬剤（平成30年7月13日現在）<sup>1)</sup>

薬剤名	本剤の使用回数	有効成分の種類	同左毎の総使用回数	IRACコード <sup>2)</sup>
キラップフロアブル	2回以内	エチフ <sup>®</sup> ロール	2回以内 <sup>3)</sup>	2B
MR. ジョーカーEW	2回以内	シラフルオフェン	2回以内	3A
アルバリン顆粒水溶剤／スタークル顆粒水溶剤	3回以内	ジノテフラン	4回以内 <sup>4)</sup>	4A

1) 使用方法「散布」の登録内容

2) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により，殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し，コード化したもの

3) 但し，は種時（直播）又は移植時までの処理は1回以内

4) 但し，育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内，本田での散布，空中散布，無人ヘリ散布は合計3回以内

（注意事項）

- ・農薬を使用する際は，ラベルに記載されている使用方法，注意事項を必ず確認のうえ使用する。
- ・ミツバチ被害軽減のため，ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8～12時まで）の農薬の散布はさける。